

種名 ハジロカイツブリ



冬になると、全国の海岸、河口、入り江に渡ってきます。新潟県内では、湖や、川の水の多いところで見られます。関川大橋から上越大橋のあたりと、正善寺川が合流するあたりで、見つかりました。冬を越すための場所に、川の水の量が多いところを利用します。

種名 アオサギ (ホンサギ、オオサギ)



日本のサギ類の中では、最も大きい種類です。全体が灰色で、頭に短い毛が生えています。広い川や、湿ったところで、魚を捕まえて食べます。関川の全地域で、一年中見られます。中田新田の、戸野目川に沿ったハンノキ林に、集団で巣を作っている場所があるので、繁殖期には、関川から戸野目川でよく見られます。

種名 カムリカイツブリ



カイツブリ類の中でもっとも大きい種類です。特に首が長くて、冬には首が白くなり、夏にはほおの飾り羽が赤くなります。冬になると、湖や河口、内湾に渡ってきます。川にもぐって魚をとります。関川大橋から北陸本線のあたりで、見つかりました。直江津港や、黒井漁港でもよく見られ、毎年、日本で冬を越すために渡ってきます。

種名 そのほかサギ類



ダイサギ、アオサギのほかに、ヨシゴイ、ゴイサギ(ヨガラス) ササゴイ、アマサギ、チュウサギ(シラサギ)、コサギ(シラサギ、イッパイサギ、シロバカ)が見られます。サギ類がたくさん見られるのが、関川の特徴です。これは、近くにアオサギ、ササゴイのコロニー(集団で巣を作る場所)があることや、取水口の堰が、餌を探るのに良い場所となっているからです。

種名 ダイサギ (シラサギ)



シラサギ類では、最も大きい種類です。おもに、夏に渡ってきて、本州から南のほうで繁殖します。水田や川岸、干潟で、おもに魚類を捕まえて食べます。関川の全地域で見られますが、多い種類ではありません。

種名 ミサゴ (ウミワシ)



各地の海岸や、海に近い川、湖に見られ、おもに、魚を捕まえて食べます。繁殖期は5～8月で、新潟県内では、佐渡島と上越市で繁殖することが、わかっています。関川大橋から北陸本線のあたりと、正善寺川が合流するあたりで見られました。関川には、餌を探りに現れます。上越大橋下流の、関川を横切る電線に、よくとまっています。